

稲作情報第4号

(水管理、雑草対策、病虫害対策)

JA夢みなみ(すかがわ岩瀬地区・あぶくま石川地区)、県中農林事務所須賀川農業普及所

令和7年5月8日～

令和7年6月24日

1 気象庁発表 東北地方発表 1ヶ月予報 (5月3日～6月2日までの見通し)

天候予報(5月1日発表)によると、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ない見込みです。平均気温は平年並か高い見込み、降水量は平年並か多い見込み、日照時間は平年並か少ない見込みです。

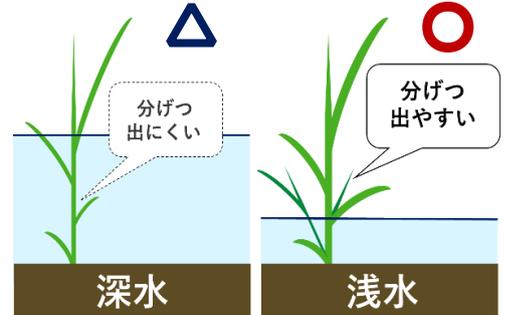
2 水管理

(1) 田植え直後～活着期

植え付け姿勢を保つため、活着するまではやや深水とし、活着を促しましょう。

(2) 分けつ期

活着後は浅水管理とし(水深3cm程度)、水温を高めて分けつの発生を促しましょう。この時期に深水にすると、分けつの発生が遅れ、軟弱な稲になってしまいます(右図)。



異常還元(ガスわき)が起きたら

① ガスわきとは

湛水後、高温が続くと、田んぼの中にあつた稲わら等が急速に分解し、稲の根にとって有害なガス(ガスわき)が発生します。このガスわきにより、稲の生育が悪くなる場合があります。

② 発生時の対策

○土中のガスが抜けるようすぐに落水し、稲の根に酸素を供給しましょう。

○施肥は行わないでください。

○秋耕をしない田んぼで起こりやすいため、収穫後は秋耕を行い、翌年の異常還元を抑えましょう。



ガスわきの写真

(3) 中干し期

① 中干しの効果

○水を切ることで、稲の過剰な分けつの発生を抑え、土へ酸素を供給し、根の健全化を行う働きがあります。

○地面が固くなるため、倒伏が少なくなり、秋の収穫作業が楽になります。

② 中干しの時期

○始める目安は、コシヒカリの場合m²当たりの茎数が400本を超えた頃(例年6月20日前後)です(表1)。

○表2を目安に、幼穂形成始期までには中干しを終わらせましょう。

③ 溝切り

○中干し前に溝切りをすることで、中干しだけでなく、その後の水管理も楽になります。

○枕地を一周切り、溝同士を連結して、水尻に水が抜けるようにしましょう。

表1 中干し開始の1株あたり茎数の目安

| 目標茎数(本/m ²) | 400 | | | 450 | | |
|-------------------------|--------|----|----|--------|----|----|
| 品種 | コシヒカリ等 | | | ひとめぼれ等 | | |
| 坪あたり株数(株) | 60 | 50 | 45 | 60 | 50 | 45 |
| 1株あたり茎数(本) | 22 | 26 | 27 | 25 | 30 | 33 |

※目安のため、栽培法等により異なります。

表2 幼穂形成始期の目安

| | 品種 | 幼穂形成始期 |
|-----|-------|-------------|
| 平坦部 | ふくひびき | 7/3～7/8 頃 |
| | 天のつぶ | 7/9～7/14 頃 |
| | ひとめぼれ | 7/10～7/15 頃 |
| | コシヒカリ | 7/15～7/20 頃 |
| 山間部 | チヨニシキ | 7/13～7/18 頃 |
| | 里山のつぶ | 7/7～7/12 頃 |

3 一発剤散布後の雑草対策

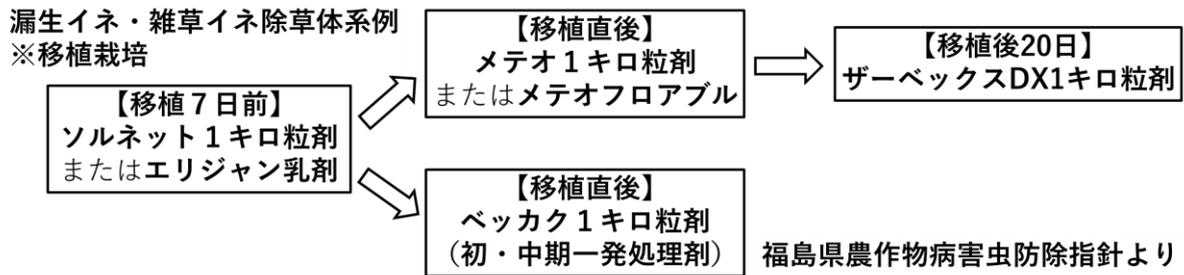
除草剤処理後、除草剤の施用時期や水管理等により残草がみられる場合があります。草種に応じて対策が異なるため、草種に応じた除草剤散布を実施しましょう(表3)。

表3 草種とその対策(移植栽培)

| 残草した草種 | 除草剤または対策 |
|----------------------------|-------------------------|
| ノビエのみ | クリンチャー1キロ粒剤、ヒエクリーン1キロ粒剤 |
| ノビエ+広葉雑草(ホタルイ、オモダカ、クログワイ等) | アトトリ1キロ粒剤、レプラス1キロ粒剤 |
| 広葉雑草(ホタルイ、オモダカ、クログワイ等) | バサグラン液剤、バイスコープ1キロ粒剤 |
| 藻類・表層剥離 | モゲトン粒剤 |

4 漏生イネ・雑草イネ対策

- 移植栽培では、除草剤による体系処理が可能です(下図を参照)。
- 直播栽培では対策が困難なため、移植栽培への切替を検討しましょう。
- 中干し期以降に見られる場合、株ごと抜き取り、ほ場外に持ち出して処分しましょう。



5 葉いもち対策

箱施用剤を使用しなかった場合、本田施用の薬剤を散布しましょう。また、置き苗はいもち病の発生源となるため、補植が終わったら速やかに処分しましょう。

6 虫害対策

(1) イネドロオウムシ(イネクビホソハムシ)

- 幼虫時に葉を食害し、6月から7月にかけて年1回出現します。
- 育苗箱施用による防除が一般的ですが、株あたり10頭で5%程度の減収となることから、右の写真のような幼虫が多発する場合は薬剤防除を行いましょう。



イネドロオウムシの幼虫

(2) 斑点米カメムシ類

- 須賀川・石川地方では下の写真のような小型のカメムシ(成虫が年4回出現)や大型のカメムシ(成虫が年2回出現)の発生が見られます。暖冬により越冬したカメムシが多い可能性があるため防除の徹底が必要です。
- 小型のカスミカメムシには飛行して移動できない幼虫の時期(5月下旬から6月上旬)の草刈りが有効です。
- 水田内のノビエや、ホタルイ等のカヤツリグサ科雑草も斑点米カメムシの発生源となるため、水田内の除草も併せて徹底しましょう。



| | |
|-------------------------------------|---|
| 県中農林事務所須賀川農業普及所 電話(0248)-75-2180 | ご不明の点は、JA夢みなみ、須賀川農業普及所にお問い合わせください 次回の発行予定日は令和7年6月25日(水)です。 |
|-------------------------------------|---|

本資料は、発行日現在の農業登録情報を基に作成しています。農業使用の際は、最新情報を確認願います。